

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	61 -	事業名	高齢者優待事業	担当部課	福祉部長寿課
------	------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	2	老人福祉費
		政策分類	3	地域にある施設の活用を推進する	大事業	5	高齢者優待事業
	その他（関係法令、要綱等）	長久手市高齢者文化施設優待事業実施要綱、あつたかあど交付要綱、長久手市高齢者外出促進事業実施要綱					
事業開始の背景、経緯等	市内の施設や交通機関の利用を優待補助し、高齢者の外出を促すことで社会的視野を広めるとともに生きがいを得られるよう事業を開始した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 高齢者に対し、福祉の家や市内の文化施設、公共交通機関の利用を助成する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出機会を増やし、社会参加を促すことで地域内交流を活性化させる。					
	事業を構成する事務事業	① 高齢者文化施設優待事業	改善・見直し	④			
	② あつたかあど事業	現状維持	⑤				
	③ 高齢者外出促進事業	現状維持	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		6,492	9,070	9,975	10,799
			決算		6,032	8,382	8,824	
	人件費(B)	千円	決算		3,397	2,452	2,611	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		9,429	10,834	11,435		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 文化施設優待事業利用者数	人	目標	943	980	1,020	1,060	1,100
			実績	961	1,255	1,034	1,251	
	B 福祉浴優待利用人数	人	目標	5,048	5,250	5,450	5,650	5,650
			実績	4,931	4,640	4,658	4,536	
	C リニモ利用券交付枚数	枚	目標	3,439	3,580	3,750	3,850	3,950
実績			3,576	4,151	5,015	4,693		
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 前年度実績を元に目標を設定								
B 前年度実績を元に目標を設定								
C 前年度実績を元に目標を設定								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 名古屋市の敬老パス、尾張旭市の高齢者タクシー基本料金助成等、高齢者の外出補助を行う制度が中心である。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 福祉浴の利用は横ばいかやや減少傾向であるが、他の2つの指標は目標値を達成しており、高齢者等の外出の機会は、概ね確保できていると考えられる。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 過去3年間の実績値も頭打ち又は減少しているため、更なる外出を促す改善等が必要。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 外出のための経済的な支援だけではなく、外出するための機会や場所の創出を行う。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 一方的な優待事業ではなく、自ら外出したくなる仕組みづくり、市民協働による輸送手段の確保等を検討したい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業									
番号	①	事務事業名	高齢者文化施設優待事業	款	3	項	1	目	2	大事業	5	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成8年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度内に名都美術館3回、トヨタ博物館1回、無料で入館することができる。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者の文化活動への関心を高め、外出の機会を増加させる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		551	562	610	601
		決算		707	572	712	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 文化施設利用助成金						712	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	人	目標	943	980	1,020	1,060	1,100
		実績	961	1,255	1,034	1,251	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
名都美術館入館者：1,032人（619千円）							
トヨタ博物館入館者：219人（93千円）							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

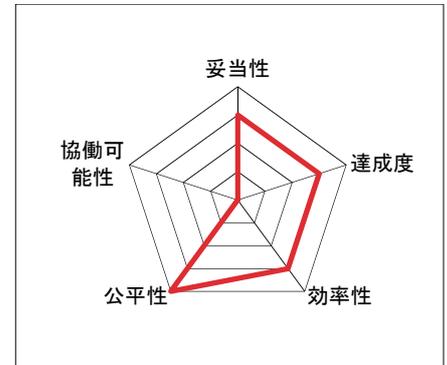
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
申請方法、優待内容、対象文化施設の増加等、利用の拡充を検討する。
(何をどのような状態に改善したのか)
申請場所が長寿課のみであったが、福祉の家でも申請できるように変更した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
申請場所を長寿課窓口の他に福祉の家の窓口においてもできるように改善したことで、概ね目標どおりの利用があり、一定の外出のきっかけづくりとなっている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
利用者が一部の方に偏る傾向があり、多くの方が利用できる事業内容の検討が必要。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
あったかあどの優待事業への編入などの見直しを検討する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業									
番号	②	事務事業名	あったかあど事業	款	3	項	1	目	2	2	5	中事業	2
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成14年度		終了（予定）年度		-					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 ござらっせの優待料金（700円→400円）による利用、福祉浴室・歩行浴室の利用及びNバスの無料乗車ができる。 ※年間10回は、福祉の家の福祉浴室及び歩行浴室が無料
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出の機会を増やし、社会参加することで地域との交流を盛んにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		2,518	2,518	3,195	3,327
		決算		3,021	3,391	3,581	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①	健康増進事業助成金					3,581	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
福祉浴優待利用人数	人	目標	5,048	5,250	5,450	5,650	5,650
		実績	4,931	4,640	4,658	4,536	
カード発行枚数	枚	目標	754	785	815	845	875
		実績	775	2,250	1,485	1,199	
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
あったかあど協賛店に加入してもらえるように、62店舗を訪問して協力を依頼した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

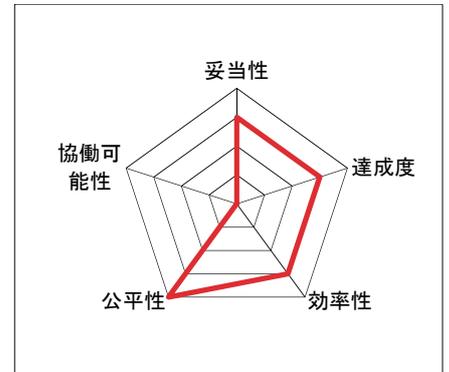
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
外出促進の機会を増やすため、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を検討した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
あったかあどの発行枚数は、目標を大きく上回っており、利用が定着してきている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
あったかあど保有のメリットが少ないため、利用方法の拡大等の検討が必要である。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、高齢者が興味を持って外出したくなるような、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を検討し、今後も事業を継続する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業									
番号	③	事務事業名	高齢者外出促進事業	款	3	項	1	目	2	大	5	中	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成20年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度に1回マナカチャージ券（1,000円分）を交付、運転免許証自主返納者に1回に限りマナカチャージ券（5,000円分）を交付
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者の外出の機会を増やし、社会参加することで地域との交流を盛んにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		3,423	5,990	6,170	6,871
		決算		2,304	4,419	4,531	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①		高齢者外出促進事業委託				4,407	千円
②		印刷製本費				124	千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
交付枚数	枚	目標	3,439	3,580	3,750	3,850	3,950
		実績	3,576	4,151	5,015	4,693	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
年度に1回マナカチャージ券（1,000円分）を4,273枚交付。運転免許証自主返納者に1回に限りマナカチャージ券（1,000円分×5枚）を420枚（60代8人、70代38人、80代33人、90代5人）交付。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

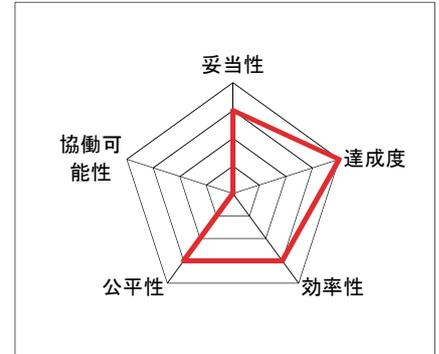
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
公共交通機関の乗車券のIC化が進み、リニモにマナカが導入された。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者の外出の機会を増やすことで、社会活動への参加を促進するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、高齢者の外出のきっかけづくりを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
リニモカードからマナカチャージ券に変更したことにより、名鉄バス、名古屋市営地下鉄など、利用できる公共交通機関が増えた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
運転免許証の自主返納日の属する年度で申請が必要としたため、返納時期による申請期間の猶予に不公平感が生じた。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者外出促進事業のほか、あったかあど事業及び高齢者文化施設優待事業においても外出促進を視野に事業改善を行い、高齢者の外出の機会を増やしていく。